

全国大会実施基準改定に向けたアンケートに寄せられた「質問」への回答について

日本学校農業クラブ連盟
実施基準検討委員会

0. はじめに

令和2年8月31日から同年10月1日に実施した「日本学校農業クラブ 全国大会実施基準改定に向けたアンケート」に対する回答（回答数：223校）の中には、「意見・要望」に加え、「質問・問い合わせ」が複数含まれていました。そうしたご質問の中から、全国の単位クラブに向けて共通理解を図っていただく必要があること等から、早急に回答を要すると判断したものを抜粋し、日本学校農業クラブ連盟としての基本的な考え方や現在の方針等について以下のとおり回答いたします。

1. プロジェクト発表会

質問1	○以前実施していた区分にあった「食料・生産」では、農業生産の研究プロジェクトと食品加工に関する研究プロジェクトを同じ土俵で比較審査するのには無理があるとの総括があって、現状の分野に改定した経緯があったと思う。今回の提案内容はI類がまた元の「食料・生産」と同じ状態に戻っているように感じるが、日連はどのような考えでこの提案を出しているのか説明してほしい。分野を学習指導要領の分野に合わせて4つの分野とすることは考えないのか。2会場で2分野ずつ開催し、審査員も2分野ずつ担当すれば開催県や運営担当校の負担も少なくてすむし、学習指導要領に則っており、かつ表彰の機会も増えるのではないかと（北北海道）。
回答	第72回春季代議員会の提案では前改定の経緯が考慮されないまま、方向性をお示ししました。分野構成についてはいただいた様々なご意見も参考に再度協議をさせていただき、来年度の春季代議員会で改めて提案いたします。4つの分野とし、2会場で2分野ずつ、審査員も2分野ずつを担当するというご意見につきましては、分野の特性があるため一人の審査員が2分野の審査をするのは困難と予想されます。よって今まで通り3分野にしたいと考えています。
質問2	○意見発表大会と分野の区切りを揃えられないかと（東北北海道）。
回答	現段階では、意見発表会と分野を統一した新分野案を作成しています。
質問3	○第72回春季代議員会報告書の議案に対する意見・質問で、「プロジェクト発表会で示しました分野で意見発表会と統一することで進めています」と回答していただいているが、どのような議論の過程を経て、プロジェクト発表会の分野で統一するという方針へと変更されたのか。現在案に至る経緯とどのような理由があったのか教えていただきたい（岐阜県）。
回答	プロジェクト発表会と意見発表会がこれまで同一の分野構成で実施されてきたことを鑑み、クラブ員の発表会への参加準備や先生方の発表への指導に混乱をきたさないためにも両発表会で分野構成を統一するという方向で進めています。今回実施した全国アンケートでも、両発表会の分野の統一について多くの意見をいただきました。この結果も考慮に入れ、新分野の作成に向けて検討を進めているところです。

質問4	<p>○事前資料の審査において、「1 発表原稿は誤字脱字がなく、書かれているか」については前回の導入時にも多くの議論がなされてきたところだが、指導担当教師の指導レベルの問題であると考えるので、その部分を審査するのはクラブ員の活動評価としては相応しくないと考える。また、発表方法の審査において、「1 発表に関する準備や機器の活用は適切であったか」については近年の機器トラブルの少なさ、運営担当校の参加校への指導徹底等もあり、発表会までの事前指導により十分対応できるものであると考えるので、その部分を審査するのはクラブ員の活動評価としては相応しくないと考える。したがって、両項目とも審査項目に入れることは必要ないのではないか。</p> <p>事前資料と発表内容の審査項目は、P D C Aを念頭に置いた新たな審査項目の設定であると認識しているが、事前資料における審査項目と発表内容における審査項目に重複する部分を感じられる。特に事前資料の審査項目3と発表内容の審査項目3、事前資料の審査項目5と発表内容の審査項目4については検討してほしい（北北海道）。</p>
回答	<p>誤字脱字が審査項目に入る以前は、誤字脱字が多くみられるといった経緯がありました。誤字や脱字により、発表内容の伝わり方が大きく変わることも考えられるため、引き続き審査項目としたいと考えています。「1 発表に関する準備や機器の活用は適切であったか」については、機器のみを審査するのではなく、実演方法などもこの項目で採点をしています。</p> <p>なお、審査基準と配点については様々な考え方があり、今回のアンケートにおいても多くのご意見をいただきました。全国大会実施基準等改定スケジュールにしたがい、令和4年度に新基準の方向性を示すことを目標とし、引き続き検討を進めて参ります。</p>

2. 意見発表会

質問1	<p>○「主体的に問題を解決する能力と態度を養うことを目的とする」ことをしっかりと踏まえた発表者のなかには、プロジェクト発表の取り組みや成果が盛り込まれすぎている発表者が増加している傾向にあるように感じている（宮城県）。○意見発表がプロジェクト化している。研究発表になっている（岡山県）</p>
回答	<p>意見発表会で取り扱う内容は、発表者であるクラブ員が日ごろの農業関係科目の学習を通して学んだり考えたりした身近な問題や、将来の抱負等に関する内容となっており、直接的にプロジェクト活動の成果を発表するものではありません。このことについて、クラブ員ならびに指導教師の先生方にもより適切に理解していただけるよう、検討して参ります。</p>
質問2	<p>○Ⅱ・Ⅲ類のプロジェクトの内容と統一するべきではないか（青森県）。○意見発表とプロジェクト発表の分野が異なるのは、指導がやりづらいのではないかと（長崎県）他。</p>
回答	<p>現在はプロジェクト発表会、意見発表会の分野を統一して新分野を検討しています。</p>
質問3	<p>○分野を学習指導要領の分野に合わせて4つの分野とすることは考えないのか。2会場で2分野ずつ開催し、審査員も2分野ずつ担当すれば開催県や運営担当校の負担も少なくすむし、学習指導要領に則っており、かつ表彰の機会も増えるのではないかと（北北海道）。</p>
回答	<p>一人の審査員が、特性の異なる2つの分野について同時に審査を行うことは現実的には困難であり、公平公正な判断に影響を及ぼす可能性もあると考えています。また、分野を4つとすることについては、ご指摘いただいたようなメリットもある一方、前述のように1人の審査員に2分野を担当していただくことは適切ではないと考えていることや、分野を増やすことによって運営の人員確保など競技運営上の課題も大きくなること等から、従来どおり3分野としたいと考えています。</p>

質問4	<p>○事前資料の審査において、「1 発表原稿は誤字脱字がなく、書かれているか」については前回の導入時にも多くの議論がなされてきたところだが、指導担当教師の指導レベルの問題であると考えるので、その部分を審査するのはクラブ員の活動評価としては相応しくないと考える。また、発表方法の審査において、「1 発表方法や態度は適切であったか（発表中の特殊なパフォーマンスを評価するものではない）」については近年の発表の様子、運営担当校の参加者への指導徹底等もあり、発表会までの事前指導により十分対応できるものであると考えるので、その部分を審査するのはクラブ員の活動評価としては相応しくないと考える。したがって、両項目とも審査項目に入れることは必要ないのではないか。</p> <p>発表内容と発表方法の審査配点が同等という審査基準に違和感を感じる。発表方法にウェイトがあると特殊なパフォーマンスに傾いていく懸念があるので、しっかりと発表内容に重点を置いた発表会にするためにも審査配点については、再度検討してほしい（北北海道）。</p>
回答	<p>誤字脱字が審査項目に入る以前は、誤字脱字が多くみられるといった経緯がありました。誤字や脱字により、発表内容の伝わり方が大きく変わることも考えられるため、引き続き評価の基準としたいと考えています。</p> <p>「1 発表方法や態度は適切であったか（発表中の特殊なパフォーマンスを評価するものではない）」については、近年、発表中の特殊なパフォーマンスが見受けられることがあるため、引き続き審査項目として載せていく方向で検討していきます。</p> <p>なお、審査基準と配点については様々な考え方があり、今回のアンケートにおいても多くのご意見をいただきました。全国大会実施基準等改定スケジュールにしたがい、令和4年度に新基準の方向性を示すことを目標とし、引き続き検討を進めて参ります。</p>

3. 平板測量競技会

質問1	<p>○競技要領図表が測点5点の図表になっていることについて改定の方向が示されているが、そもそもの全国大会実施基準では多角形の辺数は9以内となっている。まずは実施基準そのものをしっかり見直してはどうか（北北海道）。</p>
回答	<p>令和2年度 全国大会実施基準 P.20～23 の表示例に関してですが、極端に難しいものを例示すると、出場参加チームが減少してしまう可能性もあると考えています。</p>
質問2	<p>○平板測量は今現在使われる機会が少なく、平板測量競技を行うことに対して疑問がある（東北北海道）。</p>
回答	<p>過去に本競技会の見直しについて検討する中で当時の国土地理院長に相談し、全国大会を視察していただきました。その結果、「平板測量競技会の内容は、測量のイロハが詰め込まれている。さらに、手作業によるチームワークを必要とする測量も大切であるし、本格的に測量を学んでいない生徒も参加できるので、現状維持で良いのではないかと。」との回答（談話）をいただきました。このような経緯から、最新の測量機器を活用するような、測量を本格的に学習したクラブ員のみしか参加できないような競技会にはしないとの方向性に落ち着きました。また、現在のコロナ禍、いじめ等の問題があるなかで、手作業によるチームワークを必要とする測量の大切さも、見直されるべきものではないかと考えております。</p>

質問3	○水準測量による高低差の測定に移行してはどうか（秋田県）。
回答	質問1、質問2の回答をご参照ください。また、まずは県連レベルで新しい測量競技の在り方を協議して実践されてみてはいかがでしょう。農業鑑定競技会も県連での取り組みから全国大会での競技に至った経緯もあり、創造的に取り組まれるのもあるのではないかと考えます。
質問4	○本校では該当カリキュラムがないため参加していないが、使用器具等の調達が難しくなっている現状があることは把握している。数年先を見越した改善が必要なのではないか？（群馬県）
回答	平板測量の器具については、愛知県内のある業者に相談したところ、「ヤマヨ測定機株式会社に対応しているので、今すぐに不足することはない」との返答がありました。また、この業者の関係者も、国土地理院長の回答（談話）と同様の考えを述べておられました。
質問5	○実社会において、平板測量を用いて仕事をしている会社はない。時代に逆行している感じがする（千葉県）。
回答	質問2、質問3の回答をご参照ください。
質問6	○平板測量は測量の基本的な技術を学ぶことはできるが、現在は使われなくなってきている技術であり、大会競技としての実施には不向きではないかと思われる。また、生徒・教員の減少により実施が難しくなっているという現状もあり、今後は公開競技とする方向で検討していただきたい（山梨県）。
回答	質問1、質問2、質問3の回答をご参照ください。
質問7	○平板測量という技術が、近年の現場でどれだけ活用できるのか？少し疑問である。現状に即した競技内容に変更すべきではないだろうか。備品等の環境整備の問題もあるとは思いますが転換期だと感じています。審査基準の詳細が不明な点が多い。（全国大会事務局にならないと実際の減点事項がわからない）よって、審査員の審査項目、減点内容等の詳細を公開して欲しい（静岡県）。
回答	質問2、質問4の回答をご参照ください。なお、令和2年度 全国大会実施基準 P.25 「(d) 作業動作、作業態度」の減点内容等、審査基準に不明な点が多いとのご指摘については、どこまで公開することが適切であるか、現在検討中です。
質問8	○最新の測量、ドローン、トランシット、セオドライト、トータルステーション、水準測量、光波等の測量競技会に変更することについて。さらに、実施基準の測点は6点にする必要がある。また、平板測量ではなく、セオドライトを用いた角測量・測距・求積計算に変更していくべきである（熊本県）
回答	質問1、質問2、質問3の回答をご参照ください。
質問9	○審査基準が曖昧である。最優秀賞と優秀賞の結果（差）を公表すべきである。各校どこが減点されているかがわからず、次年度に活かすことができない（熊本県）。
回答	質問7の回答をご参照ください。

質問 10	○平板測量よりもトランシットやレベルのほうがまだ社会で使うのではないか。ドローンの操作、知識を競うほうが現実的ではないか（沖縄県）。平板測量は、公共機関や建設現場において今現在あまり行っていない現状が伺える。建設協会や測量協会の意見を取り入れ、「トランシット競技会」や「新たにドローン競技会」の開催など。生徒の更なる知識と技術の習得、即戦力で地域社会に貢献できる人材の育成を目的に新しい競技会を開催してもよいのではないかと考えます。（沖縄県）。
回答	質問 1、質問 2、質問 3 の回答をご参照ください。

4. 農業鑑定競技会

質問 1	○開催校の問題の準備等が大変にならないでしょうか。単位クラブでも、細かく校内大会（予選）を開催することは負担増にならないでしょうか（長野県）。
回答	分野の数が増えることにより、競技会運営上の負担が増す可能性があると思われま。運営上の様々な工夫や見直しによって業務の効率化・省力化を図り、競技会運営全体の中で負担を軽減する方策を検討していく必要があると考えております。 校内選考の内容や方法については、学科構成や特色等に応じて、各校の裁量によって検討し、実施していただければと思います。
質問 2	○大項目において 1. 作物から 4. 草花については、専門分野以外はすべて同じ項目となっています。これは、専門分野以外の問題はすべて同じと考えてよいのでしょうか。（長崎県）
回答	「分野 0. 共通」の問題以外は、それぞれの分野ごとに出題される予定です。
質問 3	○本校は園芸科学科 1 間口で、「野菜」と「草花」を履修しています。この場合、全国大会への代表生徒は 2 名となるのでしょうか？また、カリキュラム変更で「果樹」が増えた場合、3 名となるのでしょうか？そうではなく、現行と同じく基本は間口数でコース制なら＋アルファでしょうか？（北北海道）
回答	令和 2 年度春季代議員会報告書内においても回答しましたとおり、全国大会の出場者数については現行基準の内容を引き継ぐことを予定しています。すなわち、各単位クラブあたりの出場者数は募集学級数まで、となります。コース制の扱いについてなど、詳細は現行基準および補足説明の内容をご確認ください。
質問 4	○分野が 10 に分かれるということは、最優秀賞が 10 名受賞となるのか（愛知県）
回答	はい、そのように考えております。

5. クラブ員代表者会議

回答事項無し。

以上